

平成22年7月期
第2四半期決算説明資料

SANNO

株式会社 山王

～貴金属表面処理加工分野のリーディングカンパニー～

平成22年3月24日

▶ 決算概要と見通し

- 平成22年7月期 第2四半期業績
- 平成22年7月期 業績見通し

▶ 成長戦略と事業の方向性

▶ ご参考(会社概要等)

平成22年7月期 第2四半期決算ハイライト

▶ 売上高： 復調傾向だが、期初計画比若干未達

▶ 営業利益・当期利益： 損失計上だが大幅改善途上

(単位:百万円)

	H21/7 1Q-2Q		H22/7 1Q-2Q				
		構成比(%)		構成比(%)	前年同期比(%)	計画	計画比(%)
売上高	4,446	100.0	3,531	100.0	△20.5	3,600	△2.0
営業利益	△622	—	△380	—	—	△350	—
経常利益	△593	—	△376	—	—	△330	—
四半期純利益	△1,758	—	△90	—	—	0	—

保険金入金時期がずれ込んだため

ほぼ想定どおりの収益回復傾向

▶ 売上原価減少(△24.7%)で粗利改善(+39.2%)

▶ 増収、金など材料価格落ち着く+「原価低減活動」の継続

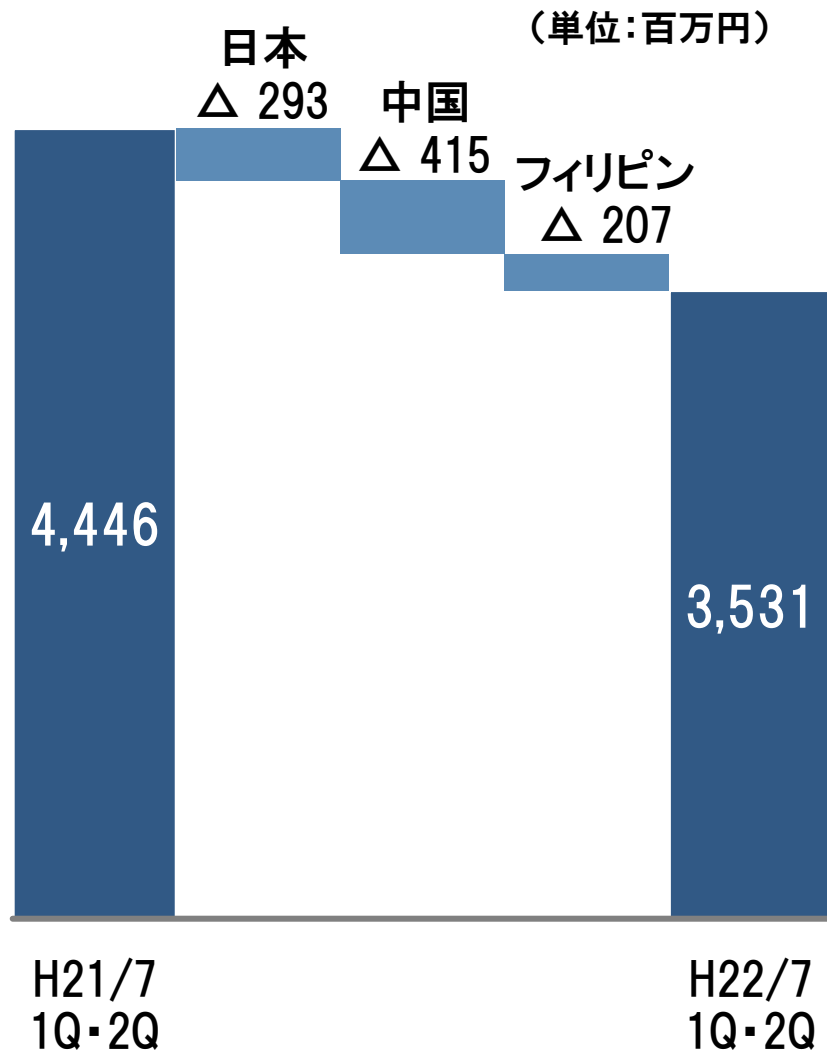
▶ 販売管理費減少(△14.2%)で営業利益2億円以上改善

(単位:百万円)

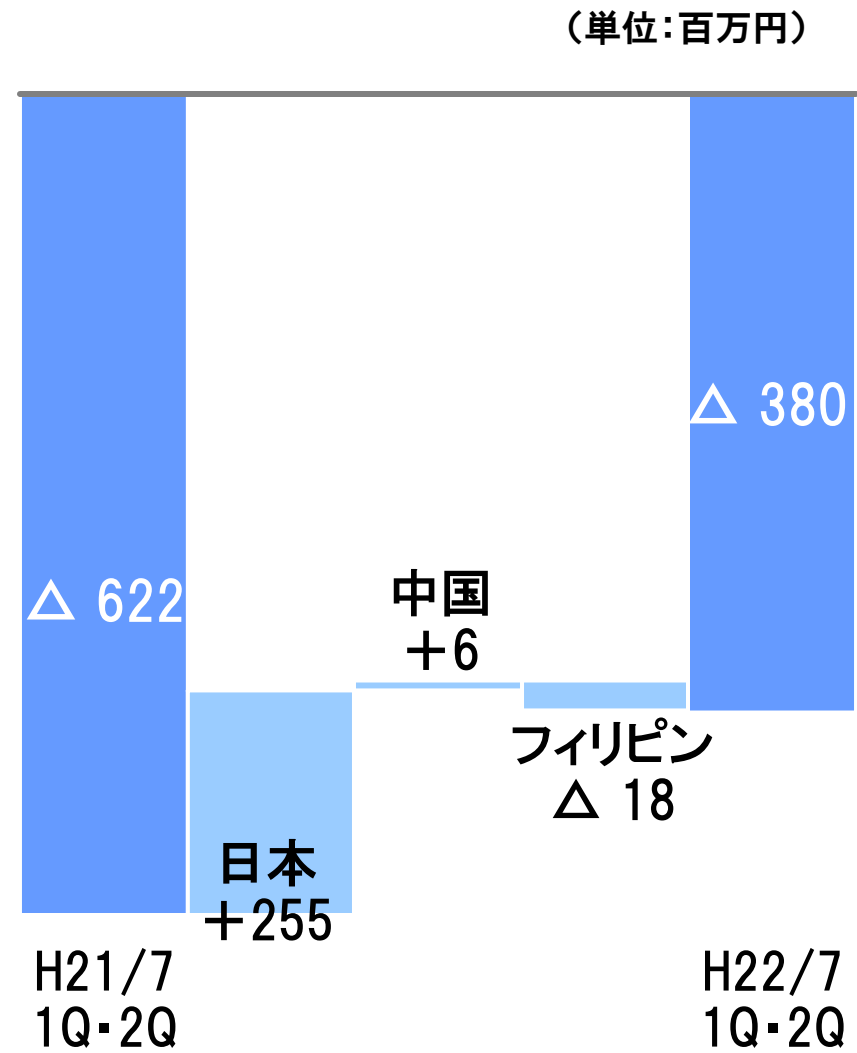
	H21/7 1Q-2Q		H22/7 1Q-2Q		
		構成比(%)		構成比(%)	前年同期比(%)
売上高	4,446	100.0	3,531	100.0	△20.6
売上原価	4,158	93.5	3,130	88.6	△24.7
売上総利益	288	6.5	401	11.4	+39.2
販管費	910	20.5	781	22.1	△14.2
営業利益	△622	—	△380	—	

地域別状況： 国内での収益改善すすむ

売上



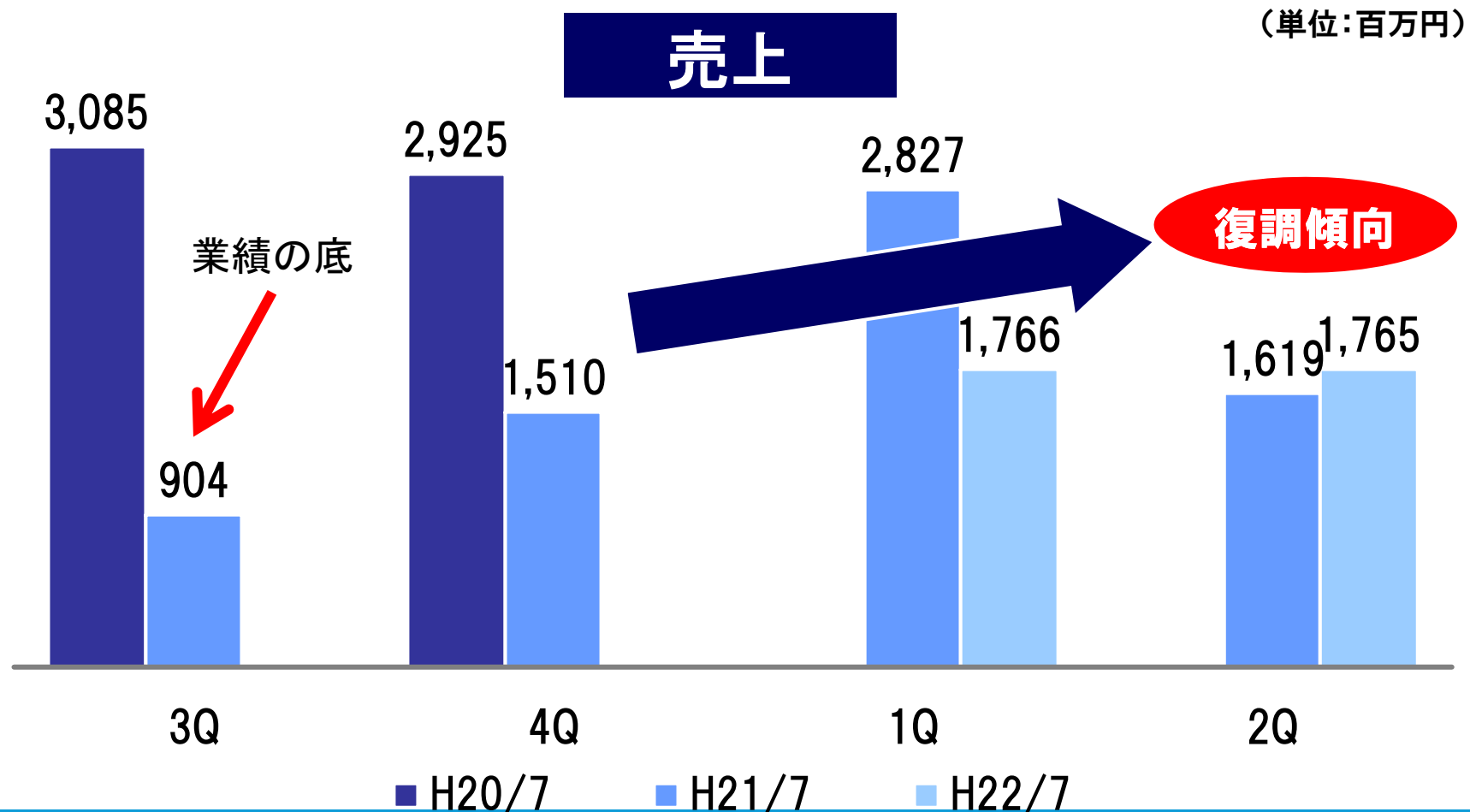
営業利益



復調傾向にある事業（前期3Qが業績の底）

▶ 減退したためつき需要は前期4Qから復調傾向へ

▶ 大口顧客向け携帯電話が復活、PC周辺機器なども増加基調



平成22年7月期 第2四半期の状況

▶ 国内復調および海外はフィリピンが好調

国内

平成21年8月～22年1月

- ▶ 主要顧客からの電子部品需要がパソコン周辺機器中心に復調
 - ▶ 売上：前期4Qに復調、今期に入り増勢
 - ▶ 顧客の当社めっき技術への高い評価は維持

海外

フィリピン

平成21年6月～22年11月

中国

平成21年7月～22年12月

- ▶ フィリピン：日系メーカーからの引き合い強く好調
- ▶ 中国：ユーザーのアジア系メーカーとの価格競争の影響を受ける

▶ 材料比率の改善や製造経費の削減はすすむ

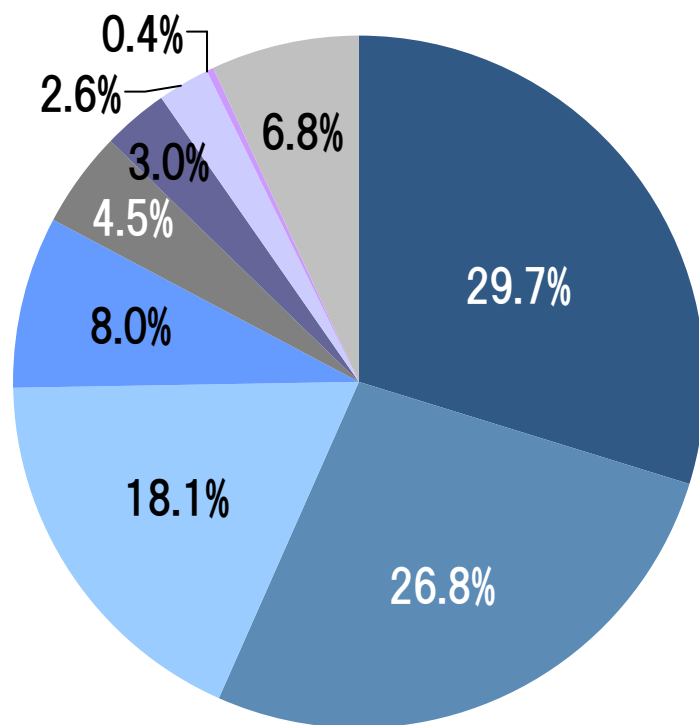
- ▶ 原価(金)市況は引き続き落ち着き、使用量も効率化

国内市場は復調傾向にある

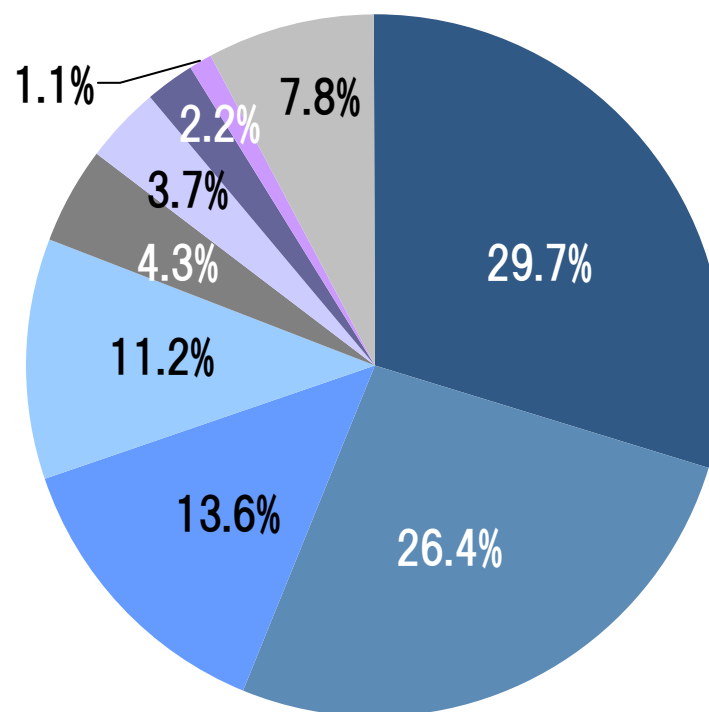
▶ 国内用途別売上構成の変化(ご参考)

主要顧客との取引が下半期に比べて復調、
携帯・汎用品堅調、パソコン・ゲーム等が伸びている

H21/7 下半期



H22/7 上半期



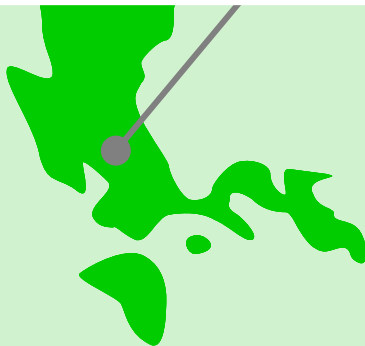
海外の現状：中国・フィリピンの売上高が逆転

山王電子(中国・無錫)

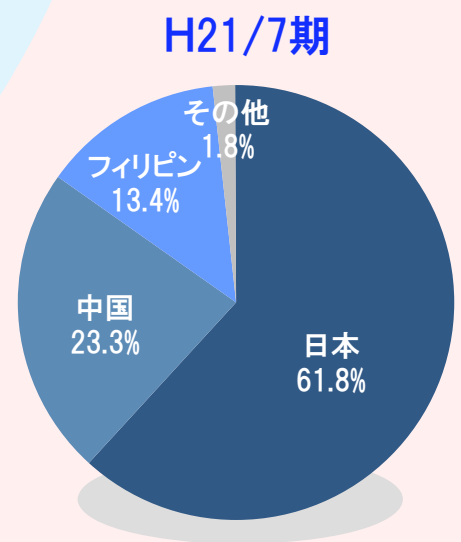
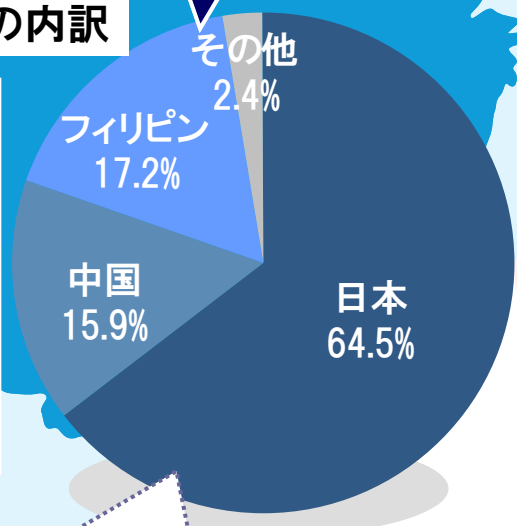


地域別売上高の内訳

SPMC(フィリピン)



H22/7 上半期
海外売上高比率: 35.5%



期	日本	海外
H21/7期	61.8%	38.2%
H20/7期	61.9%	38.1%
H19/7期	67.0%	33.0%

事業別売上高

▶ 精密プレス加工の構成比がやや上昇

▶ 既存顧客から精密プレス加工へ一定の評価

(単位:百万円)

	H21/7 1Q-2Q		H22/7 1Q-2Q			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前年同期比(%)
表面処理加工	4,094	92.1	3,225	91.4	△869	△21.2
精密プレス加工	352	7.9	305	8.6	△47	△13.4
合計	4,446	100.0	3,531	100	△915	△20.6

安定したバランス・シートは堅持

▶ 自己資本比率は60.8%(平成22年1月末現在)

▶ 純資産額約91億円(同上)

(単位:百万円)

	H21/7 末	構成比 (%)	H22/7 2Q末	構成比 (%)	増減額
株 主 資 本	9,439	99.8	9,349	—	△90
資本金・ 資本剰余金	1,833	19.4	1,833	—	0
利益剰余金	7,607	80.4	7,516	—	△91
評価換算価額等	14	0.2	△238	—	△252
純 資 産 合 計	9,454	100.0	9,111	100.0	△343
自 己 資 本 比	—	62.3	—	60.8	

円高で
海外出資金が
評価減

キャッシュ・フローの状況

▶ 売上債権増加・棚卸資産評価方法変更の影響あり

▶ 現預金残高は、第2四半期末で約42億円

(単位:百万円)

	H21/7 1Q-2Q	H22/7 1Q-2Q	増減額
現金・現金同等物 期首残高	3,868	4,732	864
営業活動キャッシュ・フロー	1,173	△221	△1,394
投資活動キャッシュ・フロー	△939	△216	723
フリー・キャッシュ・フロー	233	△437	△670
財務活動キャッシュ・フロー	△328	36	364
現金・現金同等物 第2四半期末残高	3,678	4,215	537

▶ 決算概要と見通し

- 平成22年7月期 第2四半期業績
- 平成22年7月期 業績見通し

▶ 成長戦略と事業の方向性

▶ ご参考(会社概要等)

足元の事業環境の認識

内外とも復調したが、海外・フィリピンに勢いあり

国内

既存電子部品の需要は
回復傾向

- ・携帯電話向けを中心に新規案件が復活
- ・大口主要顧客からノートパソコン向けの引き合い増加
- ・単価下落傾向が懸念材料

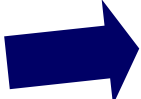


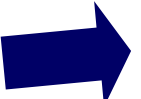
海外

景気回復でビジネスは
順調に拡大へ

- ・フィリピン: 日系顧客からの受注引き続き好調、拡大へ
- ・中国: 「スポットめっき」強化で需要取り込み

最近の事業動向(用途別・国内)

▶ 復調する需要の裾野が広がりつつある

用途	状況	取引内容の具体例
汎用品		パソコンやデジタル家電・携帯電話向け等と併用、各分野の需要回復を反映
パソコン		ノートPC向けコネクタが好調
デジタル家電		デジタルカメラ・ビデオ停滞の影響を若干受ける
携帯電話		スマートフォン向けは増加しているが復活基調もピーク時には届かない状況

平成22年7月期通期へ向けた戦術と施策

1. 既存顧客からの 受注・引き合い案件を逃さない

- ▶ 復調傾向にある国内での
ビジネスチャンスを逃さない

2. 好調なフィリピンでの 事業を強化

- ▶ 既存日系顧客との取引増加へ
関係を強化
- ▶ 中国華南・東南アジアの日系
企業へのアプローチを積極化

3. 中国で 「スポットめっき」ラインの新設

- ▶ 生産工程・品質の向上で
顧客獲得を強化

4. コスト体質を強化

- ▶ 単価下落対応として
固定費の効果的削減
＋原価低減活動実施

平成22年7月期通期見通し

▶ 売上高：国内復調・海外順調で期初計画通り(+16.6%)

▶ 増収+コスト管理強化で営業赤字幅は予定通り縮小へ

▶ 特別損益に上半期の棚卸資産の評価益を織り込み済み

(単位:百万円)

	H21/7・実績		H22/7・計画			
		構成比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)	差異
売上高	6,862	100.0	8,000	100.0	+16.6	+1,138
営業利益	△1,432	—	△240	—	—	+1,192
経常利益	△1,317	—	△200	—	—	+1,117
当期純利益	△2,494	—	110	—	—	+2,604

平成22年7月期 売上高見通し詳細

▶ 国内復調。海外はフィリピンで好調を持続する見込み

地域別売上高	H21/7・実績		H22/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
国内(*)	4,403	64.1	5,500	68.8	+1,097	+24.9
中国	1,340	19.5	1,100	13.8	△240	△17.9
フィリピン	1,119	16.3	1,400	17.5	+281	+25.1

* 国内工場出荷分、一部海外売上高含む

▶ 構成比率は変わらない見込み

事業別売上高	H21/7・実績		H22/7・計画（単位：百万円）			
		構成比(%)		構成比(%)	増減額	前期比(%)
表面処理加工	6,277	91.5	7,320	91.5	+1,043	+16.6
精密プレス加工	585	8.5	680	8.5	+95	+16.2

設備投資・減価償却費・研究開発費計画

▶ 設備投資額 国内での設備更新・増強投資が中心

▶ 国内工場のライン更新・能力増強投資を実施

▶ 中国で「スポットめっき」ライン増設を実施予定（1億5000万円）

▶ 研究開発費 製品・工程改善への投資を継続

▶ 「スポットめっき」に続く新プロセス技術開発を引き続き予定

（単位：百万円）

	H21/7・実績	H22/7・計画	差異	前期比
設備投資額	489	890	+401	+82%
減価償却費	1,110	960	△150	△13.6%
研究開発費	191	205	+14	+7.3%

配当政策

- ▶ 平成22年7月期:通期100円を予定
(中間50円+期末50円)

(単位:円)

	H21/7・実績	H22/7・計画
通 期	75	100
中 間	75	50
期 末	0	50
配 当 性 向	—%	—%

▶ 決算概要と見通し

- 平成21年7月期 業績
- 平成22年7月期 見通し

▶ 成長戦略と事業の方向性

▶ ご参考(会社概要等)

基本戦略＝海外軸に増収・成長を最優先

▶ アジア日系企業との取引拡大で、事業を拡大

事業の拡大

営業戦略

- ・国内めっき市場でのシェア・アップをめざす
- ・既存コネクタメーカーとの取引深耕

海外戦略

- ・受注拡大へ本社に海外営業部を新設、営業を強化・拡充
- ・中長期的な円高基調を踏まえた生産拠点の移転

+

業務提携による業務補完

- ・海外でのプレス加工体制の整備など競争力強化へメニュー整備

+

内部体制(企業体質)強化

技術改良の推進、生産の効率化(原価低減活動)、管理部門の効率化

営業活動の状況

▶ 既存コネクター・メーカーとの取引深耕の状況

事例A: 従来取引関係のない地域で新規顧客との取引を開始予定

事例B: 主要顧客との追加受注案件

事例C: 紹介案件で、弊社工場見学を踏まえ、好感触

▶ 本社に海外営業部を新設、海外営業を強化・拡充

主要顧客国内本社へ営業アプローチを強化
海外案件に関する詳細な情報の取得



①本社統括案件の獲得＋②現法決済案件の掘り起こし

中国で「スポットめっき」ラインを増設

▶ 1億5千万円かけ、第5ラインを増設(2010年6月稼動予定)

- ▶ 第4ラインの「スポットめっき」改造は既に完了
- ▶ 中国での日系顧客の「スポットめっき」仕様需要に迅速に対応
⇒ 顧客からの受注・引き合い案件を逃さない



増加売上見込額 約30百万円/月

▶ アジア製の価格攻勢を付加価値で対抗

- ▶ 主要顧客のコネクター・メーカーが、有望市場の中国でアジア(台湾・シンガポール)企業の価格攻勢に直面
⇒ 付加価値の高い「スポットめっき」で顧客を囲い込み

「プレスめっき加工」への評価が高まりつつある

▶ 国内主要顧客から高い評価

「プレス加工」⇒「表面処理加工」の依頼が増加している
(ワン・ストップサービスを求める声が増加)

⇒ 顧客からの受注・引き合い案件を逃さない

▶ 顧客困い込みに「プレス⇒表面処理」一貫加工体制がますます重要に

強化策

1. 営業

従来以上にプレス一貫加工体制を強調

2. 生産体制

高速プレスマシンを新たに導入

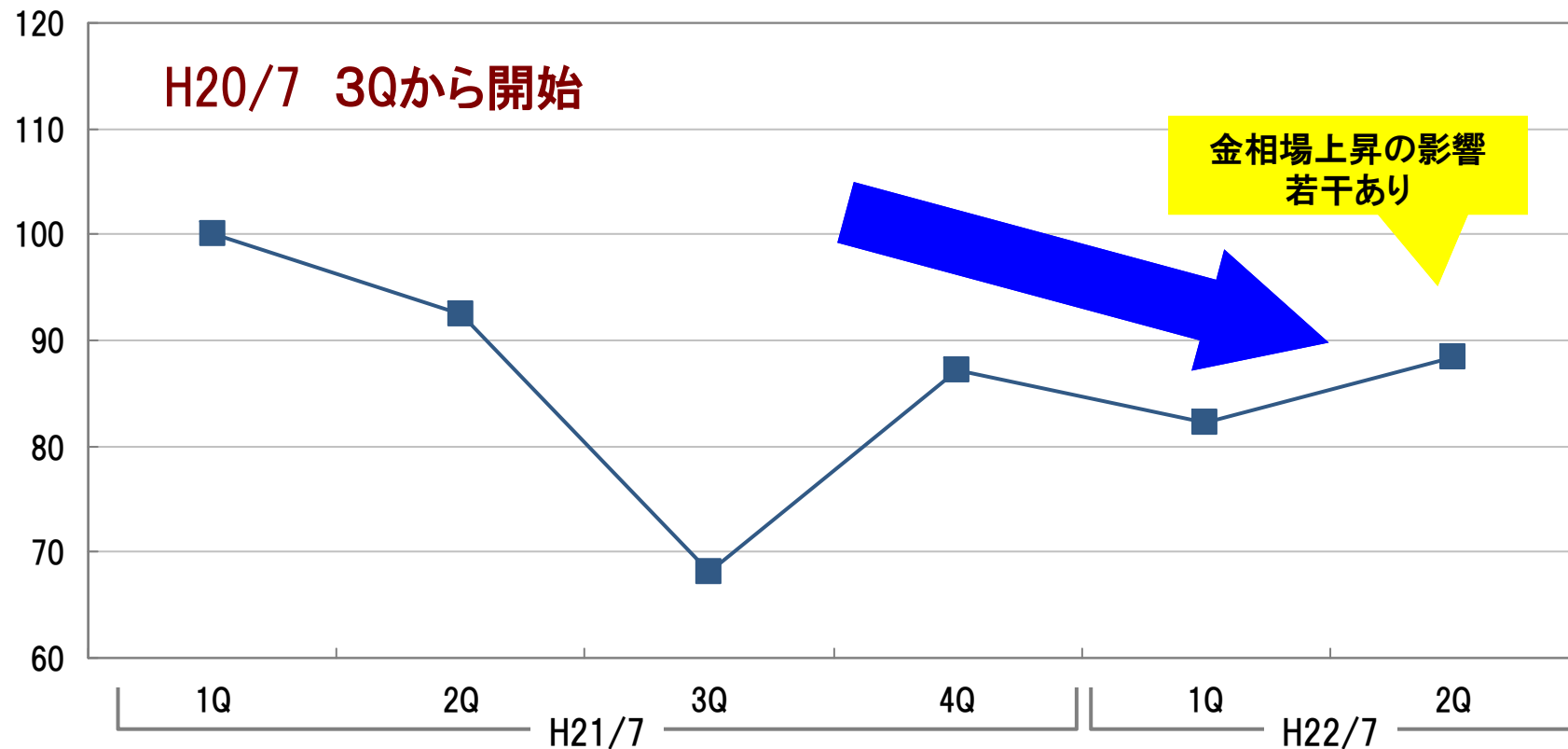
原価低減活動は順調に進展

▶ 金消費量を効率化する工法は地道な改良が進む

▶ 金価格ほか長期的に高騰が想定される原材料の調達対策

H21/7 1Q=100とする

材料費比率の推移（連結）



環境共生社会を意識して事業を強化する

▶ 省資源(めっき使用量削減)と代替技術の開発に注力

いかに環境を汚さないで「めっき」を普及させるか

欧州を中心とした環境規制に十全に対応

「RoHS(ローズ)指令」
(2006年施行)

電気・電子機器の
鉛・カドミウム・水銀など
6物質の使用量を制限

当社の
対応

定期的に外部機関へ
分析を委託

ニッケルバリア(鉛フリー)
の開発・実用化

+

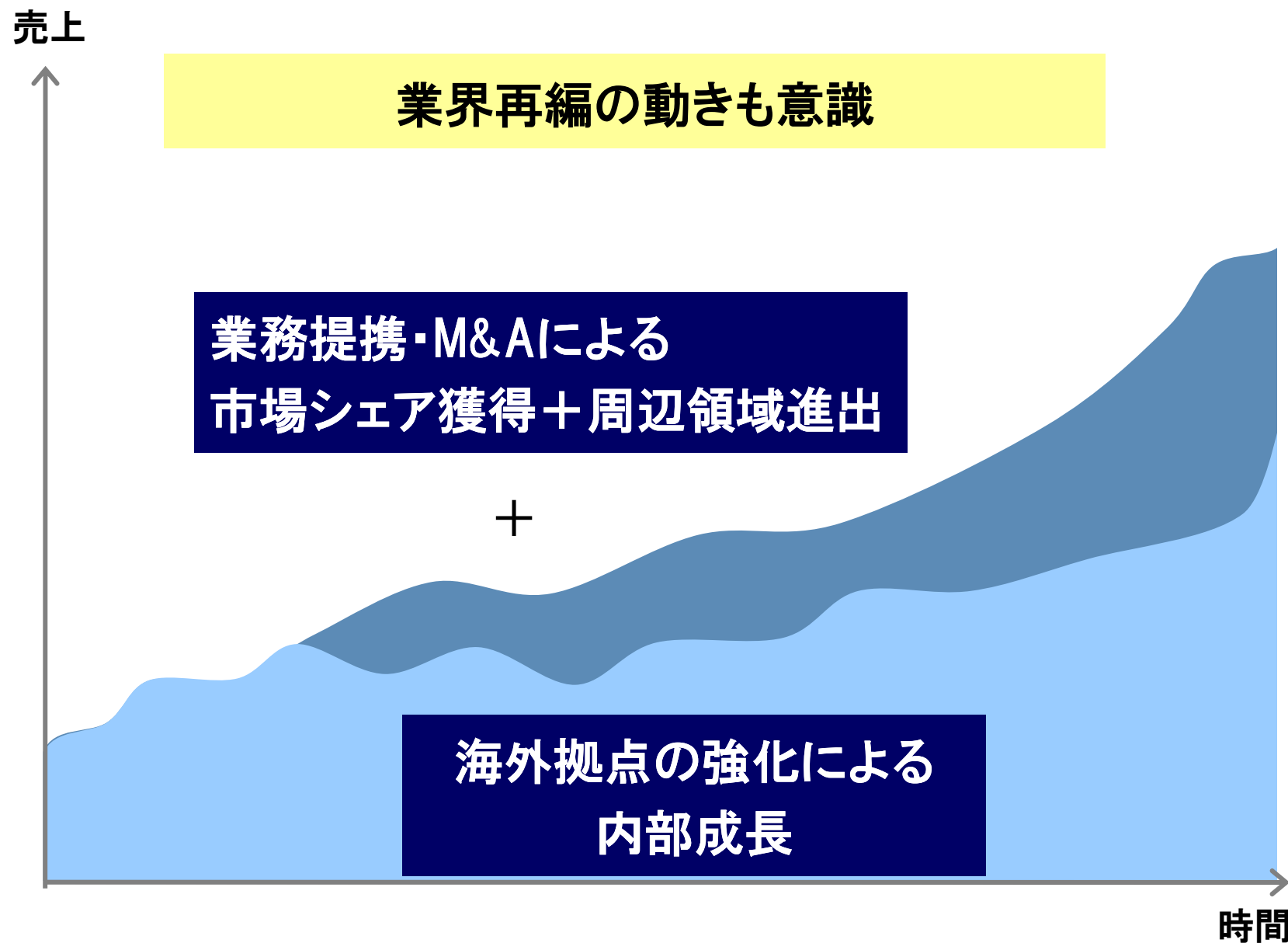
「REACH(リーチ)規則」
(2010年厳格化)

約3万種類の化学物質の
製品への含有量や有無の
管理を要求

規制物質未使用を証明する
書類を当社が発行

更なる代替技術の開発へ

中長期成長イメージ： ビジネスをつかまえる



▶ご参考(会社概要その他)

表面処理加工＋精密プレス加工

事業内容 : 電子部品を対象とした貴金属表面処理加工・精密プレス加工、
金型設計・製作

創業 : 昭和33年8月

代表者 : 代表取締役社長 荒巻 芳幸

所在地 : 本社:神奈川県横浜市港北区綱島東

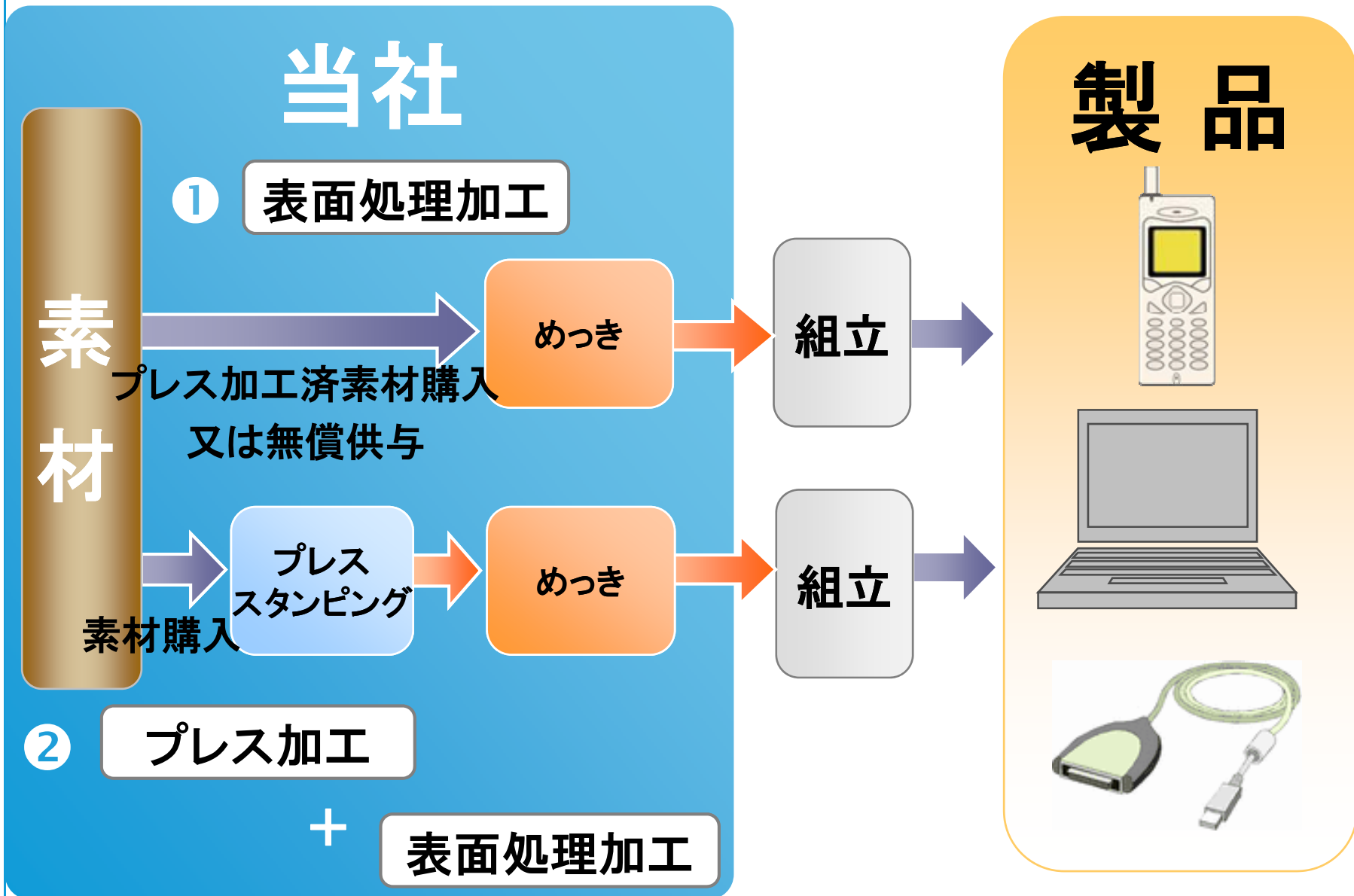
資本金 : 9億6,220万円(平成21年7月末現在)

売上高 : 68億62百万円(平成21年7月期)
(連 結)

事業拠点 : 日本・中国・フィリピン

従業員数 : 685名(平成22年1月末現在)
(連 結)

ビジネスモデル: ①表面処理加工 又は
②プレス加工+表面処理加工



国内外バランスのとれた当社の事業

▶ 表面処理加工・高付加価値処理のソリューション

国内

高付加価値処理
(ニッケルバリア加工)



国内電子部品メーカー

▶ 顧客の海外進出ニーズへのソリューション

海外

海外進出への対応力



日系電子部品メーカー



顧客囲い込み

現地電子部品メーカー

プレス加工処理

当社コア技術＝表面処理が求められる理由

■ 素材(金属)の性能を高める

通電性

電子部品には、半永久的に電気の流れが良いことが求められ、そのため「金めっき」が施される。

耐食性

金属にはサビ(酸化)が発生。サビには金が最も強いため、「金めっき」が、さらに性能向上の為に、「後処理(防錆処理)」が施される。

半田付性

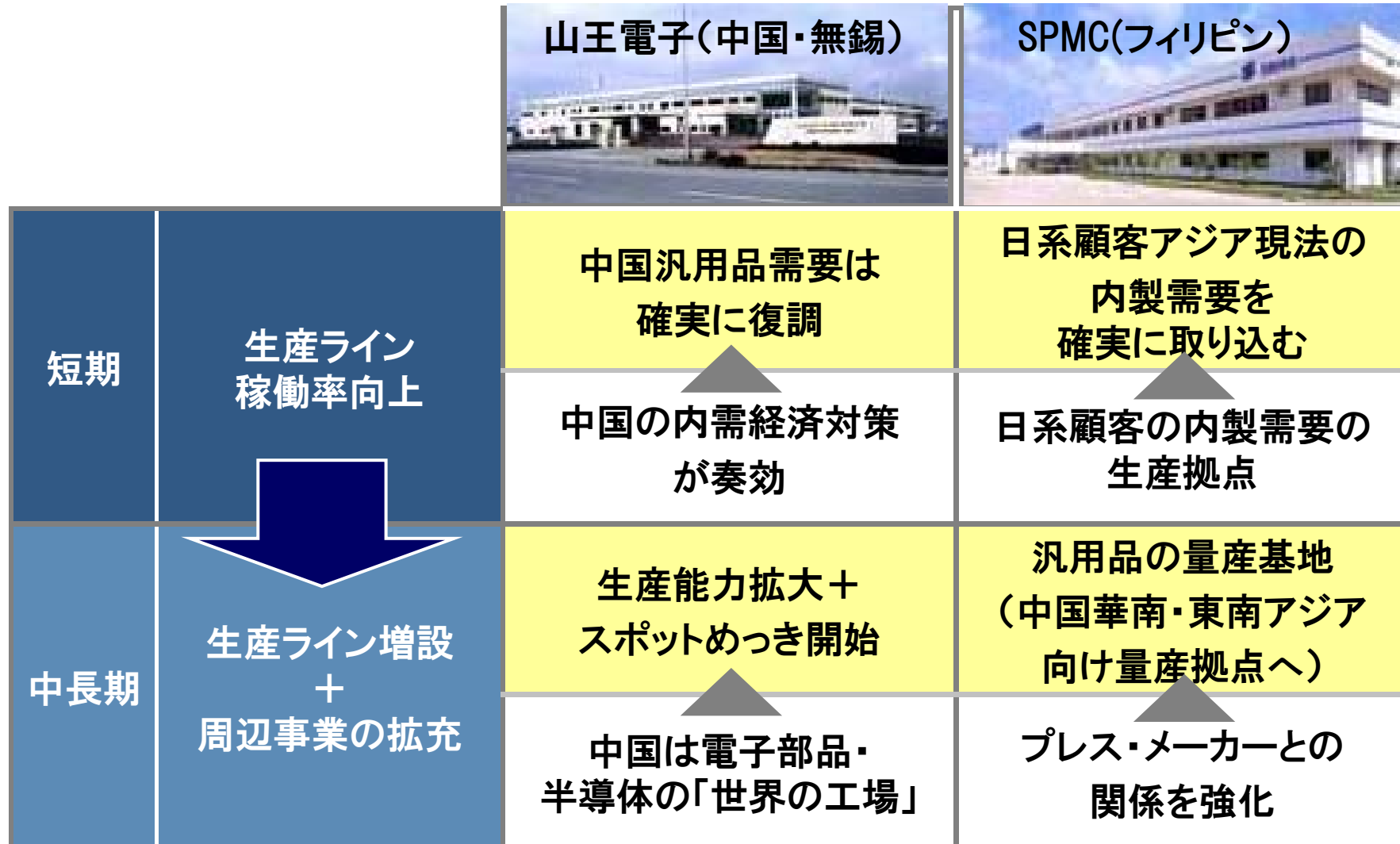
電子部品をボードに実装する場合に、半田(鉛フリー)を活用。その際、ピンに「金めっき」または「半田めっき」されていると、スムーズかつ強固な装着が可能。

挿抜性

コネクタを接続する際にスムーズに挿入、抜去ができる方法として、「金めっき」及び「後処理」が最適。

海外：フィリピン量的拡大＋中国生産性改善

▶ フィリピン・中国の生産拠点の位置づけを差別化・明確化



金型設計能力向上研修は順調に実施中

▶ プレス・めっき一貫加工体制を新規顧客獲得の切り札に

▶ 金型設計能力(プレス・めっき一貫加工体制)は、当社技術・ノウハウの差別化に不可欠

▶ 国内の需要不足・単価下落を打開する方策として強化中



本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成22年3月24日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により平成22年3月24日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

平成22年3月

株式会社山王

平成22年7月期 第2四半期決算説明資料